

実体経済の動向

◇生産の増勢回復、製品在庫率はほぼ横ばい

(生産——4月の生産は著増)

鉱工業生産(季節調整済み)は、3月前月比-1.5%と減少のあと、4月(速報)には同+4.9%と著しく大幅な伸びを記録した。月々のフレをならすため3ヵ月移動平均値の前月比伸び率でみても、1月+0.2%、2月+0.1%のあと、3月は+1.7%と増勢を強めることとなり、年明け後増勢鈍化がみとなっていた生産はここにきて再び増勢を強めてきたものと思われる。このように、生産が4月に至って大幅な伸びを示したのは、暖冬異変の影響が4月にきてほとんど払拭されるに至ったこと、1～3月にたまたま一時的に生産減の重なった大型機械類がいっせいに生産増となったこと、生産調整などで伸び悩んでいた自動車(トラック、乗用車)の生産が持ち直しぎみとなってきたことなどによるもので、4月の増加の一部については前後の期間の動きとならして考えるのが妥当であると思われる。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減率・%)

		43 年			44 年	44 年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月
鉱工業	指数	156.1	162.4	169.9	171.1	173.0	170.3	—
	前期(月)比	5.4	4.0	4.6	0.7	1.8	-1.5	4.9
	前年同期(月)比	18.4	17.5	17.6	15.5	15.9	14.8	18.7
投資財		5.6	4.4	7.3	-0.1	3.2	-2.6	6.5
資本財		6.5	6.0	7.7	-1.3	3.1	-3.7	6.5
同(輸送機械を除く)		9.6	1.4	9.5	0.9	1.9	-4.2	9.6
輸送機械		1.0	15.0	3.9	-4.9	3.3	-2.3	—
建設資材		3.1	0.6	6.8	2.6	2.9	-0.6	7.2
消費財		9.0	1.7	3.7	-1.6	2.0	-2.5	6.0
耐久消費財		10.8	5.1	6.3	1.5	5.1	-5.7	8.1
非耐久消費財		5.4	-0.1	2.0	-1.3	-1.0	0.3	2.2
生産財		2.4	5.3	3.6	3.2	0.5	0.1	2.9

(注) 1. 通産省調べ、44年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は3月に、化学機械、金属加工機械、農業用機械等を中心に-4.2%と減少したあと、4月は化学機械が前月減少の反動や大型プラント用装置の集中完工などから前月比2.6倍と著増したのをはじめ、合成樹脂加工機、圧延機、クレーン、コンベア等も著増したため、前月比+9.6%と著しい伸びを示した。資本財輸送機械は3月中船舶およびトラックの減少から-2.3%の減少を示したが、4月には鉄道車両、船舶の減少にもかかわらず、トラックが軽トラック、大型トラックを中心に増加し、乗用車(1500～2000cc)もかなりの増加となったため、前月比若干の増加となった模様である。次に、建設資材は、3月には金属製建具(スチールサッシ、アルミサッシ)の減少を主因に前月比-0.6%と微減したが、4月は、鉄骨、橋りょうが大幅に増加したほか、セメント、コンクリートパイル、石綿スレート等の窯業・土石製品、アルミサッシ、アルミドア等の金属製建具もそろって増加したため、前月比+7.2%と大幅な増加となった。耐久消費財は3月中家庭用電機(扇風機、冷蔵庫、洗たく機)、精密機械(時計、カメラ)を中心に前月比-5.7%と大幅に減少したが、4月にはカラーテレビ、エアコンディショナー、扇風機、冷蔵庫、カメラ、時計等がそろって増加し、また乗用車もかなりの増加となったため、+8.1%と著増した。非耐久消費財は、3月に繊維製品、食料品の増加から+0.3%と微増したあと、4月は、たばこの著増、合成洗剤、石けん、写真感光材料の増加から+2.2%と引き続き増加した。生産財は3月中、機械(汎用内燃機)が相当減少した反面、鉄鋼、石油製品、繊維等が増加したため、前月比+0.1%と微増を示し、4月には鉄鋼(銑鉄、粗鋼、圧延鋼材)、化学(塩ビ、ポリエチレン、硫安)、合繊織物等を中心に+2.9%と大幅な増加となった。

(出荷——増加基調続く)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、3月前月比+2.5%と増加したあと、4月(速報)も同+2.1%と引き

続きかなりの伸びを示した。また、例月フレの大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いても、3月+0.2%のあと4月は+2.8%と相当な増加を示している。このように、4月の出荷が速報ベースでかなりの伸びを示したのは、建設資材が生産同様大幅な伸びを示し、また前月著減の耐久消費財が大幅に増加、さらに一般資本財、生産財も根強い増勢を示したためである。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は3月中ボイラー・原動機、風水力機械等の増加にもかかわらず、化学機械の著減、金属加工機械、農業用機械等の減少が響いて前月比ほぼ横ばい(-0.1%)となったが、4月は化学機械、合成樹脂加工機、クレーン、ポンプ、コンベア、圧延機等がいずれも大幅に増加したため、前月比+2.5%と相当の増加となった。資本財輸送機械についてみると、3月は船舶、鉄道車両が著増したため、前月比+30.9%と著しい伸びを示したが、4月は船舶、鉄道車両が前月の反動もあって大幅に減少し、大型乗用車、二輪自動車も相当減少したため、トラックが相当増加したにもかかわらずかなりの減少となった模様である。また、建設資材は3月中製材、窯業・土石製品(板ガラス等)を中

心に+0.7%と小幅の増加を示したあと、4月にはアルミドア、スチールサッシ等の金属製建具、コンクリート管、石綿スレート等が大幅に増加し、また亜鉛鉄板の出荷も相当伸びたため、前月比+7.3%と著増を示した。耐久消費財は、3月には家庭用電機、カメラ、時計を中心に-8.0%と著減したが、4月には前月減少したカメラ、時計、扇風機、冷蔵庫、ラジオ等のほか中型乗用車も増加したため、+5.1%と大幅な増加を示した。なお、耐久消費財の出荷はこのところかなりのフレを示しているが、基調としては着実な増勢が続いているものと思われる。非耐久消費財は、食料品、繊維製品の増加から3月は+0.1%と微増、4月はたばこ、灯油等を中心に-0.3%と微減を示すなど、ほぼ横ばい程度で推移した。生産財は3月中鉄鋼、鉱業製品、繊維(製糸、化繊)、石油等の増加から+1.8%と増加し、4月も、鉄鋼(粗鋼、圧延鋼材)、化学(ポリエチレン、ポリスチレン、フェノール樹脂)、繊維を中心に+2.9%と引き続き大幅な伸びを示した。

(製品在庫——増勢続くも在庫率は大勢横ばい)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、3月に前月比+0.5%と微増のあと、4月(速報)は耐久消費財の著増を中心に+2.5%の増加を示した。もっとも製品在庫率指数は、3月93.6のあと、4月(速報)93.9とわずかに上昇を示したが、やや長い目でみると、昨年末にかけて相当大幅に上昇した在庫率は年明け後ほぼ横ばいで推移しているものとみられる。ちなみに、5月時点調査の本行「主要企業短期経済観測」ならびに「中小企業短期経済観測」の結果をみると、製品需給に関して供給超過と判断する企業の割合はわずかながら減少しており、当面の業況判断についても悪化を見込む企業の割合は漸減傾向を示している。

最近の製品在庫の動きを特殊分類別にみると、一般資本財は、3月に農業用機械(耕うん機、脱穀機)、事務用機械、繊維機械が大幅に増加し、風水力機械、金属加工機械等もかなり増加したため+3.3%と大幅な増加を示したあと、4月には

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	43 年			44 年	44 年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱 指 数	154.1	157.3	162.7	168.4	167.1	171.3	—
工 前期(月)比	5.1	2.1	3.4	3.5	0.2	2.5	2.1
業 前年同期(月)比	17.9	14.8	15.9	14.9	13.9	16.8	18.1
投 資 財	5.5	1.3	4.9	4.0	-0.7	7.9	1.4
資 本 財	6.5	1.9	4.5	4.2	-2.0	10.2	-0.1
同 (輸送機械を除く)	9.6	-0.4	9.5	1.0	0.7	-0.1	2.5
輸 送 機 械	0.6	6.0	-3.3	10.7	-5.6	30.9	—
建 設 資 材	3.8	-0.8	5.8	3.0	2.0	0.7	7.3
消 費 財	7.8	-0.2	2.9	4.2	1.1	-1.6	2.4
耐 久 消 費 財	12.2	7.3	2.7	3.9	-0.5	-8.0	5.1
非 耐 久 消 費 財	5.3	-2.6	3.3	2.6	1.7	0.1	-0.3
生 産 財	2.9	4.4	2.6	2.6	0.1	1.8	2.9

(注) 1. 通産省調べ、44年4月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

木工機械、工作機械、普通鋼鋼管等の減少が響いて、鉄鋼用ロール、圧縮機・送風機等の増加にもかかわらず前月比-0.9%とわずかながら減少を示した。資本財輸送機械は、トラックの在庫調整が進んでいるため、3月-13.9%のあと4月も相当大幅な減少を示した模様である。一方、建設資材は、3月に塩ビ製品、金属製建具を中心に微増した(前月比+0.3%)あと、3月は前月比横ばいとなった。耐久消費財は、3月に家庭用電機(エアコンディショナー、カラーテレビ、白黒テレビ)、時計、カメラを中心に+5.0%と増加したあと、4月もエアコンディショナー、カラーテレビ、扇風機、軽乗用車等を中心に+8.7%と引き続き大幅な増加を示した。非耐久消費財は3月中、たばこ、食料品、写真材料を中心に-2.7%と減少したが、4月は石けん、紙、ガラス製品、たばこ等を中心に+1.1%の増加となった。生産財は3月に化学、非鉄、石油を中心に+1.9%と増加し、4月も化学、鉄鋼等の増加から+1.4%と増加を示した。

3月の製造業原材料在庫(季節調整済み)は、2月+0.2%と微増したあと-0.4%とわずかながら減少した。業種別にみると、鉄鋼(鉄くず、鉄鋳

石)、非鉄、船舶、ゴム等の業種で減少した反面、金属製品(建具用鋼板、アルミ材)、皮革等は増加を示した。この間原材料消費(季節調整済み)は2月+0.5%と微増のあと、3月+1.4%と上昇しており、この結果、原材料在庫率指数は84.5、前月比-1.9%の低下を示した。とくに輸入素原材料の在庫率は、1月106.0、2月104.3、3月99.6とこのところかなりの低下を示しているが、これは、昨年秋口から年末にかけて積み増された在庫がしだいに取りくずされ、漸次通常の水準に復してきていることを映じたものとみられる。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年		44年	44 年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
在庫指数	131.3	140.1	142.3	142.7	143.0	142.3
前期(月)末比	0.9	6.7	1.6	1.9	0.2	-0.4
国産分	-2.0	6.3	1.8	1.4	0.8	-0.4
素原材料	-1.7	11.0	0.1	2.3	-0.9	-1.3
製品原材料	-2.0	4.4	2.5	1.1	1.4	0
輸入分	10.2	8.2	0.5	3.4	-2.1	-0.7
素原材料	10.8	7.7	0.4	3.4	-2.0	-1.0
在庫率指数	83.5	87.2	84.5	86.3	86.1	84.5
国産分	78.6	82.2	80.0	81.1	81.3	80.0
素原材料	91.3	99.1	95.8	98.4	97.8	95.8
製品原材料	77.0	79.2	77.5	77.9	78.5	77.5
輸入分	103.2	103.4	97.8	104.0	101.7	97.8
素原材料	105.0	105.3	99.6	106.0	104.3	99.6

(注) 通産省調べ、44年3月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	43 年		44年	44 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
製造工業	4.0	2.7	4.2	2.8	0.5	1.4
国産分	4.1	2.4	4.0	2.8	0.6	1.2
素原材料	3.7	3.2	3.2	3.0	-0.2	0.6
製品原材料	4.2	2.4	4.0	2.7	0.6	1.3
輸入分	2.8	4.7	6.9	2.8	0.1	3.3
素原材料	3.1	3.9	6.4	2.8	-0.4	3.6
製品原材料	-1.4	14.6	11.4	3.9	2.9	-0.4

(注) 通産省調べ、44年3月は暫定。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	43 年			44年	44 年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱指数	135.9	143.2	156.0	160.3	159.6	160.3	—
前期(月)末比	2.6	5.4	8.9	2.8	2.1	0.5	2.5
前年同期(月)末比	22.1	23.6	25.4	21.1	23.6	21.1	26.7
業製品在庫率指数	88.3	89.8	95.9	93.6	95.5	93.6	93.9
投資財	-2.3	11.9	11.4	4.7	4.6	-0.2	-0.9
資本財	-6.0	13.8	11.4	5.9	3.4	0	-2.1
同(輸送機械を除く)	2.4	6.4	13.6	8.8	2.9	3.3	-0.9
輸送機械	-33.7	42.3	10.9	-5.5	6.4	-13.9	—
建設資材	2.1	9.6	11.6	3.6	5.6	0.3	0
消費財	6.4	6.5	12.1	-4.2	-0.5	-0.6	5.9
耐久消費財	10.5	8.4	16.3	3.7	3.3	5.0	8.7
非耐久消費財	5.1	3.9	6.7	-7.6	-3.2	-2.7	1.1
生産財	1.4	1.5	4.5	8.6	2.9	1.9	1.4

(注) 1. 通産省調べ、44年4月は速報。

2. 前年同期(月)末比は、原指数による。

2月の販売業者在庫(季節調整済み)は、1月+2.6%のあと、-1.1%と8ヵ月ぶりで減少を示した。月々のフレを勘案しても、販売業者在庫の増勢は年末から年明け後にかけて、比較的落着きぎみに推移したと思われる。2月の動きを品目別にみると、繊維原料(綿花)、自動車、石油製品(灯油)、鋼材等が減少した反面、非鉄、生ゴムは増加を示した。また特殊分類別には輸入素原材料が大幅な減少を示したのが目だっている。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年			43年 44 年		
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
総合指数	126.0	142.4	147.9	147.9	152.7	150.1
前期(月)末比	-3.6	13.0	3.9	0.3	2.6	-1.1
素原材料	0.9	30.2	1.1	1.2	-3.2	-7.6
製品	-3.9	11.5	4.5	0.7	-2.9	-0.7

(注) 通産省調べ、44年2月は暫定。

(設備投資——機械受注はゆるやかな増勢)

設備投資動向に関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、3月-0.1%のあと4月(速報)は+2.5%とかなりの増勢を示した。3ヵ月移動平均値の前月比でみると、1月+0.2%、2月+1.0%、3月+1.1%とこのところいくぶん増勢を回復してきている。

4月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	43 年			44 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
民 需	1,812	1,860	1,893	1,994	1,922	1,965
	(8.8)	(2.7)	(1.8)	(13.1)	(- 3.6)	(2.2)
同 (船舶を除く)	1,652	1,706	1,682	1,688	1,676	1,722
	(12.6)	(3.3)	(- 1.4)	(0.4)	(- 0.7)	(2.7)
製 造 業	1,014	1,008	1,055	1,024	1,046	1,038
	(13.0)	(- 0.5)	(4.6)	(- 6.4)	(2.1)	(- 0.7)
非製造業	807	860	850	987	866	880
	(6.7)	(6.6)	(- 1.2)	(41.2)	(- 12.2)	(1.7)
同 (船舶を除く)	659	725	627	660	630	652
	(14.2)	(10.1)	(- 13.6)	(11.4)	(- 4.5)	(3.6)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

み)は、3月-0.7%と小幅減少のあと、前月比+2.7%の増加を示した。3ヵ月移動平均によってなると、1月-2.2%のあと、2月+0.9%、3月+0.8%と総じて落ち着いた動きながら、いくぶん持ち直しぎみとなっている。4月の動きを受注先業種別にみると、製造業は石油・石炭、窯業、繊維等で増加したものの、化学機械業界からの受注がかなり減少したため、全体では前月比-0.7%と小幅の減少を示した。他方、非製造業(船舶を除く)は、前月減少した電力業界からの受注が大幅に盛り返したことから、前月比+3.6%と増加した。

◇主力商品の市況は落着き商状

5月にはいつからの商品市況をみると、鉄鋼が4月後半来の騰勢一服のまま強含みながら保含いに推移し、繊維、非鉄は小浮動のうちに小幅軟化となるなど、主力商品の値動きは総じて落着きを示した。一方、その他の商品では、化学品の一部(硫酸、ポリエチレン)が強含みを続け、石油、紙等も底入れないし小反発を示すなど、総じて底堅い動きがみられた。

主力商品の落着きは、従来の急騰による模様ながめ気運の店頭(鉄鋼)、4月後半上伸後の流通段階の利食い売り(綿糸、鉄鋼)、海外相場の下落(銅)などいずれも実需を離れた動きによるもので、需給関係自体には大きな変化なく、むしろ需要期入り(繊維)、ユーザーの手持ち玉薄(銅)といった状況から、荷動きは徐々に活発化しつつあるものも多い。ただ、ユーザーの在庫積み増しはいま一歩盛り上がりや欠き(繊維、鉄鋼)、繊維等については、4月後半にみられた流通段階の先高期待がやや裏切られた面のあることも否定できない。

先行きについては、ユーザーの需要は堅調が続けているとはいえ、メーカー側の増産意欲も強く、商況の基調は大勢保含いに推移するものとみられよう。

品目別の動きをみると、まず鉄鋼では、鋼板類が4月に2年ぶりの高水準に達したこともあって

模様ながめ気運が市場に強まったほか、荷動きにさしたる盛り上がりなく保合いとなったが、条鋼類は土工建工事進捗に伴う出荷好転から上昇を持続。繊維では、綿糸、そ毛糸、生糸が値下がりするなど弱含みに推移した。綿糸は、4月後半上伸のあと糸商の利食い売りがみられ値下がりの要因となったが、実需は需要最盛期入りとあって順調。また、そ毛糸は定期市場の仕手の動きを警戒した売り急ぎにより、生糸は製糸業者が蚕糸事業団から凍結玉を引き出したことにより、いずれも値下がりした。非鉄では、銅が海外相場の反落に加え、電線・伸銅メーカーの買いも依然盛り上がりやを欠き値下がりした。もっとも、ユーザーの手持ち玉薄から在庫手当て気運が出はじめており、先行き強含み気配。鉛、亜鉛の荷動きは引き続き好調で建値引上げは徐々に浸透している。次に石油では、C重油が依然軟調ながら、ガソリン、灯油等は下げ止まり。業界の生産調整が5月から本格化しているうえ、原油入着も海員ストを映じて

減少しており、これらが下ささえ材料となった。セメントの需要は徐々に回復きみながら、メーカーの売込み競争激しく、市況は弱含みに推移した。木材では、問屋が梅雨期を控え手持ち在庫の圧縮を図っているため弱含み。化学品では、硫酸、ポリエチレンは需給引き締まりを映じて、メーカーの値上げが浸透しているが、塩ビ、カーバイドはメーカーのシェア競争激化や、供給事情好転などから値下がりするなど区々な動きを示した。紙では板紙が堅調を持続しているほか、洋紙も春需台頭にささえられて反発気配を示した。砂糖は、需要期明けや、海外相場の頭打ちなどから弱含みに推移した。

(4月の卸売物価——騰勢持続)

4月の卸売物価は、総平均で前月比+0.3%と3か月連続上昇となった。これには、鉄鋼(全面高)と非鉄(銅系製品)の大幅上昇が大きく寄与している。そのほかでは、これまで値下がりが続いた繊維(毛糸、織物)、石油・石炭(原油、原料用炭)、

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ.エ イ ト	下 降 期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/7	上 昇 期 (ボトム 43/7) 43/7 →44/4	前年度比上年率		最 近 の 推 移									
				42年度 平均	43年度 平均	44 年			44 年 4 月			5 月			保 合
						2月	3月	4月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	
総 平 均	100.0	- 0.9	+ 1.6	+ 1.5	+ 0.6	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1			
食 料 品	15.7	+ 1.8	+ 3.5	+ 2.9	+ 5.2	保 合	+ 1.0	+ 0.3	+ 0.3	- 0.1	+ 0.2	- 0.3	- 0.1		
織 維 品	10.7	- 1.7	- 2.4	+ 5.7	- 0.9	- 0.7	- 0.2	保 合	- 0.3	+ 0.4	+ 0.3	+ 0.4	- 0.2		
鉄 鋼	9.7	- 1.7	+ 2.8	- 3.0	- 4.4	+ 0.1	+ 0.2	+ 2.1	+ 0.8	+ 1.0	+ 0.6	+ 0.7	+ 1.0		
非 鉄 金 属	4.4	- 9.5	+ 11.1	- 8.6	- 0.5	+ 1.4	+ 0.2	+ 3.0	+ 0.8	+ 1.2	+ 1.9	+ 0.3	- 0.2		
金 属 製 品	3.8	- 0.6	+ 2.0	+ 2.4	+ 0.7	保 合	保 合	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	保 合		
機 械 器 具	22.1	+ 0.3	- 0.5	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合		
石 油・石 炭	5.6	- 4.1	- 0.8	+ 0.8	- 1.3	- 0.3	- 0.2	保 合	保 合	- 0.1	+ 0.1	+ 0.2	- 0.2		
木 材・同 製 品	6.2	- 1.2	+ 4.1	+ 10.3	+ 5.2	+ 0.6	- 0.1	- 1.2	- 0.5	- 0.5	- 0.4	- 0.2	- 0.4		
窯 業 製 品	3.0	+ 0.8	+ 1.8	+ 3.1	+ 1.8	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.3	- 0.2	保 合	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1		
化 学 品	7.6	- 1.6	- 0.2	- 1.4	- 2.2	保 合	+ 0.3	+ 0.1	保 合	保 合	- 0.1	- 0.1	保 合		
紙・パ ル プ	3.4	- 0.6	+ 0.7	+ 0.7	- 0.9	- 0.3	- 0.1	+ 0.4	+ 0.4	保 合	+ 0.1	保 合	+ 0.1		
雑 品 目	7.9	同水準	+ 2.5	+ 2.6	+ 0.9	+ 0.2	+ 0.7	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.1	- 0.2	+ 0.2		
工 業 製 品	82.0	- 0.5	+ 1.3	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.1	- 0.1	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.2	保 合		
うち															
大 企 業 性	59.6	- 0.5	+ 0.5	- 0.6	- 0.4	- 0.1	+ 0.1	+ 0.4							
中 小 企 業 性	21.0		+ 2.5	+ 3.8	+ 2.2	+ 0.4	保 合	+ 0.3							
非 工 業 製 品	18.0		+ 2.8	+ 4.9	+ 2.1	+ 0.1	+ 0.7	保 合	- 0.1	- 0.1	+ 0.3	- 0.2	- 0.1		

(注) 本行調べ。

紙・パルプ(パルプ、セロファン)等が前月比保合いとなった。産業別にみると、工業製品で大企業性製品、中小企業性製品とも上昇したため、前月比+0.4%と大幅上昇を示したほか、非工業製品も食料の値上がりなどもあって季節的な値下がり月にもかかわらず前月比保合いとなった。

5月にはいつてからは、上旬に前旬比+0.1%上昇したあと、中旬は保合いとなった。品目別では、鉄鋼が引き続き上昇したが、非鉄、繊維は、中旬に小反落した。産業別分類では、工業製品が上旬に前旬比+0.2%のあと中旬は保合い、非工業製品は上・中旬とも下落した。

(4月の工業製品生産者物価——小幅上昇)

4月の工業製品生産者物価は、前月比+0.2%と、3ヵ月ぶりに上昇した。品目別では、非鉄、天然および化学繊維、繊維二次製品、金属製品、窯業製品等が反発し、食料も続騰したが、合成繊維、輸送機械、木材・同製品等が値下がりし

た。

(5月の消費者物価(東京)——小幅下落)

5月の消費者物価(東京)は、前月比-0.3%と久方ぶりに下落した。これには、くだもの(いちご、夏みかん)、生鮮魚介(あじ、まぐろ)等季節商品の反落が大きく響いており、季節商品を除く総平均では、前月比+0.3%と小幅ながら続騰した。品目別では、食料費が上記季節商品のほか、乳卵、加工食品の値下がりなどもあって前月比かなり下落し、光熱費(灯油、木炭)、被服費(替ズボン、セーター)等も下落したが、反面雑費が、国鉄運賃の改訂(+16.1%)が響いてかなり上昇したほか、住居費(家賃)も小幅上昇した。

(4月の輸出入物価——輸入物価大幅上昇)

4月の輸出入物価は、総平均で前月比+0.4%上昇。これは、食料品(冷凍まぐろ、かにかん詰)、金属・同製品(鋼材)が続騰し、繊維品(衣類)が反騰、機械器具(船舶、電力ケーブル)も値上がりしたため。一方、輸入物価は、前月比+0.8%とかなり上昇した。これは、金属(鉄くず、銅地金)、

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率 43年度 平均	最近の推移			
			44年			
			1月	2月	3月	4月
総平均	100.0	+0.3	+0.1	保合	保合	+0.2
食料品	12.6	+5.7	-0.1	+0.2	+0.3	+0.1
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-0.1	-1.9	-1.4	+0.4
合成繊維	1.4	-6.4	-0.5	-0.2	-0.3	-0.1
繊維物	2.8	-0.5	-0.2	-0.4	-0.4	保合
繊維二次製品	3.2	+5.3	+0.6	+0.2	-0.1	+0.1
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	-0.9	-0.3	+0.2	+1.1
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	-0.5	+0.2	保合	保合
非鉄金属	4.4	-0.5	+1.7	+1.4	-0.4	+2.8
金属製品	4.6	+0.6	保合	保合	-0.1	+0.1
一般機械	10.4	+2.1	+0.4	+0.2	+0.1	+0.1
輸送機械	8.3	-1.6	-0.1	保合	保合	-0.4
電気機械器具	9.1	-1.0	-0.1	保合	-0.2	保合
石油・石炭製品	3.7	-1.3	-0.7	-0.6	-0.5	-0.3
木材・同製品	5.0	+5.1	+1.4	+0.5	-0.2	-0.6
窯業製品	3.4	+0.9	保合	-0.2	-0.2	+0.3
化学製品	7.8	-2.6	-0.2	-0.2	+0.3	保合
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	+0.1	-0.4	保合	+0.5
雑品目	6.1	+0.2	+0.1	+0.1	+1.8	+0.1

(注) 本行調べ。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

		ウエイト	前年度比率			最近の推移			最近の年月 前同比
			42年度平均	43年度平均	44年				
					3月	4月	5月		
消費者物価	東京	総合(季節商品を除く)	100.0	+4.1	+5.2	+1.0	+1.3	-0.3	+4.5
			91.4	+3.9	+5.6	+0.1	+1.1	+0.3	+5.0
		食料	40.9	+5.7	+6.5	+2.4	+0.7	-1.4	+4.7
		住居	10.7	+3.7	+2.4	-0.5	+0.3	+0.2	+1.9
		光熱	4.5	+0.1	+0.3	-0.1	保合	-0.1	同水準
		被服	13.0	+3.0	+5.5	+0.7	+0.9	-1.3	+4.1
	雑費	31.0	+3.4	+5.3	+0.2	+2.6	+1.2	+5.8	
		全国	総合(季節商品を除く)	100.0	+4.2	+4.9	+1.0	+1.0	
			91.4	+3.9	+5.3	+0.3	+0.8		+5.0
	人口の5都市以上		総合(季節商品を除く)	100.0	+4.1	+4.9	+1.1	+1.1	
			91.3	+3.9	+5.3	+0.4	+0.8		+5.1
輸出入物価	(契約ベース)	輸出		+0.2	+0.6	+0.3	+0.4		+1.5
		輸入		-0.4	-0.3	+0.3	+0.8		+1.6
		交易条件		+0.7	+0.9	保合	-0.4		-0.1

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

機械器具(計測機器)、繊維品(原綿)が大幅値上がりしたため。

この結果、交易条件指数は前月比0.4ポイント低下した。

◇国際収支は好調持続

4月の国際収支は、総合で144百万ドルの黒字と好調を持続した。これは主として貿易収支が大幅な黒字を続けたことによるものであるが、そのほか長期資本収支の赤字が比較的小幅にとどまったことも見のがせない。貿易収支を季節調整後でみると、輸入の落着きを主因に黒字幅は388百万ドルと従来最高の前月(357百万ドル)をさらに上回った。

長期資本収支では、本邦資本の流出額が船舶輸出の落込みに伴う延払い信用供与の減少から前月を下回った反面、外国資本の流入が外国投資家の証券投資(流入額はこれまでの最高を記録)、民間インパクト・ローンを中心に水準を高めたため、

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	43 年		44 年	44 年			前年 同月
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	2月	3月	4月	
経 常 収 支	504	649	186	107	254	228	26
貿易収支	845	1,022	612	227	430	352	144
輸 出	3,327	3,746	3,283	1,080	1,367	1,243	986
輸 入	2,482	2,724	2,671	853	937	891	842
貿易外収支	△ 317	△ 325	△ 375	△ 114	△ 137	△ 105	△ 104
移転収支	△ 24	△ 48	△ 51	△ 6	△ 39	△ 19	△ 14
長期資本収支	7	△ 123	45	53	△ 51	△ 19	△ 27
基礎的収支	511 (285)	526 (293)	231 (574)	160 (209)	203 (130)	209 (245)	1 (26)
短期資本収支	31	76	△ 10	△ 12	13	△ 20	△ 4
誤差脱漏	△ 1	△ 15	57	38	△ 26	△ 45	7
総 合 収 支	541	587	278	186	190	144	△ 12
金融勘定 外貨準備 増 減 そ の 他	541 384 157	587 531 56	278 322 △ 44	186 151 35	190 127 63	144 △ 110 254	△ 12 △ 69 57
外貨準備高	2,360	2,891	3,213	3,086	3,213	3,103	1,894
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 857	△ 789	△ 830	△ 890	△ 830	△ 567	...

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

赤字幅は19百万ドルと比較的小幅にとどまった(前月赤字51百万ドル)。

金融勘定では為替銀行の対外ポジションが263百万ドルと顕著な改善を示し、債務超過額は567百万ドルに縮小したが、反面外貨準備は110百万ドル減と1年ぶりに減少した。為銀のポジション改善は主として、海外金利高に伴う円シフトの動きを映じて外銀借入れ、海外短資がかなりの減少をみたことによるものである。

4月の輸出は季節調整後で前月を2.1%下回った(前年同月比+26.1%)。これは船舶輸出の不規則なフレ(通関、3月179、4月87各百万ドル)によるところが大きい。反面、韓国に対する米の貸与(28百万ドル)という特殊要因が含まれており、これらの要因を考慮すると、輸出は引き続き増加基調にあるとはいえ、その増勢はいくぶん鈍化してきているようにうかがわれる(ちなみに船舶、米を除いた通関輸出の前年比伸び率をみると、43年10~12月+35%、44年1~3月+30%、3月+28%、4月+26%)。品目別の動き(通関ベース)を前年同月比でみると、食料品が米を中心に著増したほか、テレビ、ラジオ、合繊織物も相変わらず高い伸びを示したが、反面、船舶が前年を下回り、自動車、鉄鋼、化学製品の伸び率も前月までに比べ低下した。地域別にみると、東南アジア向

輸 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通 関		輸出 信用 状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
43年								
4~6月	1,045	820	225	1,064	1,041	846	1,122	945
7~9月	1,074	868	206	1,098	1,107	881	1,162	997
10~12月	1,158	895	263	1,174	1,142	956	1,234	1,047
44年								
1~3月	1,224	906	318	1,248	1,147	1,024	1,254	1,063
43年12月	1,167	910	257	1,188	1,158	974	1,263	1,075
44年1月	1,228	906	322	1,242	1,154	1,039	1,215	1,112
2月	1,169	893	276	1,194	1,123	1,070	1,201	999
3月	1,275	918	357	1,310	1,162	964	1,347	1,078
4月	1,248	860	388	1,278	1,077	1,028	1,316	1,344

- (注) 1. 季節調整はセンサス局法による。
2. 四半期計数は月平均額。

けが機械、繊維、鉄鋼を中心に好調を続け、アフリカ向けも高い伸びを示したが、米国向けは鉄鋼、自動車の伸び悩みから伸び率は前月を下回り、中南米、中近東向けなども低調に推移した。

輸出の先行指標である輸出信用状受額を季節調整済み計数でみると、4月は不振の前月に比べ+6.7%となったが、その水準は1,028百万ドルと1～3月平均(1,024百万ドル)比ほぼ横ばいとなっており、また前年比伸び率の推移をみてもここ

2ヵ月20%台に低下しているなど、このところ増勢鈍化気配がうかがわれる。

4月の輸入は前年同月比で+5.8%にとどまり、季節調整後の前月比でも-6.3%となった。当月も米国港湾ストライキの影響が続いている模様(米国からの通関輸入、前年比3月-13.0%、4月-1.5%)であるが、この点を考慮しても当月の水準はなおかなり低めとなっている。品目別(通関

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	43 年			44 年		
	(単位・百万ドル)			44 年		
	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月
食 料 品	111 (+ 7)	128 (+ 19)	103 (- 1)	29 (- 34)	43 (+ 34)	59 (+104)
魚 介 類	73 (+ 4)	85 (+ 22)	53 (- 26)	18 (- 46)	18 (- 9)	19 (+ 10)
織 維 製 品	513 (+ 21)	613 (+ 27)	472 (+ 29)	168 (+ 22)	187 (+ 23)	180 (+ 19)
綿 織 物	60 (+ 3)	74 (+ 7)	51 (+ 12)	19 (+ 9)	20 (+ 4)	19 (+ 3)
合 織 織 物	103 (+ 44)	131 (+ 30)	97 (+ 41)	35 (+ 31)	40 (+ 42)	40 (+ 40)
化 学 製 品	219 (+ 22)	231 (+ 33)	200 (+ 34)	66 (+ 28)	78 (+ 30)	73 (+ 12)
非 金 属 鉱物製品	82 (+ 11)	95 (+ 22)	85 (+ 20)	28 (+ 12)	36 (+ 26)	32 (+ 16)
金 属 製 品	615 (+ 34)	663 (+ 33)	604 (+ 25)	206 (+ 27)	248 (+ 28)	221 (+ 21)
鉄 鋼	455 (+ 38)	480 (+ 37)	448 (+ 27)	154 (+ 34)	185 (+ 32)	160 (+ 19)
機 械 機 器 (船 舶 を除く)	1,462 (+ 27)	1,673 (+ 36)	1,547 (+ 33)	486 (+ 27)	669 (+ 43)	565 (+ 30)
テ レ ビ	84 (+ 76)	86 (+ 87)	61 (+ 56)	22 (+ 48)	23 (+ 55)	26 (+ 68)
ラ ジ オ	119 (+ 29)	131 (+ 35)	106 (+ 46)	36 (+ 39)	43 (+ 45)	44 (+ 55)
自 動 車	185 (+ 98)	213 (+ 65)	214 (+ 56)	75 (+ 57)	87 (+ 57)	84 (+ 44)
船 舶	278 (+ 2)	271 (+ 2)	316 (+ 13)	63 (- 16)	179 (+ 63)	87 (- 6)
光 学 機 器	98 (+ 20)	109 (+ 28)	89 (+ 22)	31 (+ 25)	35 (+ 14)	36 (+ 23)
そ の 他	386 (+ 14)	406 (+ 26)	344 (+ 26)	115 (+ 17)	136 (+ 22)	136 (+ 20)
合 計	3,387 (+ 24)	3,807 (+ 32)	3,355 (+ 29)	1,100 (+ 22)	1,395 (+ 33)	1,266 (+ 26)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

	43 年			44 年		
	(単位・百万ドル)			44 年		
	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月
食 料 品	445 (+ 8)	487 (+ 7)	504 (+ 9)	167 (+ 4)	174 (+ 8)	165 (+ 8)
小 麦	74 (- 7)	73 (+ 1)	72 (- 2)	25 (- 16)	29 (+ 30)	25 (+ 7)
とうも ろこし	54 (+ 8)	63 (+ 9)	59 (+ 1)	20 (+ 17)	17 (- 28)	19 (- 4)
砂 糖	26 (- 1)	32 (+ 12)	53 (+ 16)	17 (+ 11)	20 (+ 2)	16 (- 10)
原 燃 料	1,865 (+ 13)	1,965 (+ 9)	1,919 (+ 7)	606 (+ 3)	658 (+ 6)	629 (- 1)
羊 毛	92 (+ 2)	93 (+ 19)	99 (+ 20)	31 (+ 19)	35 (+ 14)	31 (+ 10)
綿 花	114 (+ 25)	116 (+ 32)	108 (- 14)	39 (- 11)	36 (- 33)	36 (- 31)
鉄 鉱 石	210 (+ 16)	219 (+ 22)	218 (+ 17)	67 (+ 15)	77 (+ 16)	75 (+ 1)
鉄鋼くず	32 (- 67)	54 (- 25)	37 (- 19)	8 (- 43)	5 (- 57)	12 (+ 1)
大 豆	66 (+ 9)	70 (- 3)	66 (- 6)	22 (- 19)	16 (- 24)	21 (- 16)
木 材	300 (+ 19)	297 (+ 16)	265 (+ 6)	86 (+ 1)	91 (+ 6)	99 (- 4)
石 炭	135 (+ 38)	135 (+ 25)	149 (+ 22)	54 (+ 35)	52 (+ 16)	47 (+ 11)
原 油	404 (+ 22)	454 (+ 3)	464 (+ 11)	143 (+ 5)	166 (+ 19)	149 (+ 8)
化学製品	174 (+ 13)	193 (+ 16)	185 (+ 12)	57 (+ 5)	62 (+ 9)	61 (+ 12)
機 械 機 器	306 (+ 25)	350 (+ 23)	364 (+ 10)	130 (+ 16)	140 (+ 19)	126 (+ 19)
鉄 鋼	56 (- 39)	75 (- 30)	66 (+ 3)	27 (+ 10)	21 (+ 30)	16 (- 18)
非 鉄 金 属	145 (0)	190 (+ 13)	212 (+ 32)	68 (+ 37)	76 (+ 48)	62 (+ 42)
そ の 他	178 (+ 30)	187 (+ 30)	172 (+ 19)	56 (+ 12)	59 (+ 22)	60 (+ 31)
合 計	3,169 (+ 12)	3,445 (+ 10)	3,422 (+ 10)	1,111 (+ 7)	1,189 (+ 11)	1,119 (+ 6)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

ベース)の動向を前年同月比で見ると、非鉄地金が高い伸びを続けたのが目だつが、そのほかは、とうもろこし、大豆、綿花、木材が落着きを持続し、また鉄鉱石、石炭、原油も伸び率を低めた。

4月の輸入承認額は季節調整後の前月比で+24.7%の大幅増加となった。これは今後数年間にわたって分割輸入される大口契約分(ソ連材、原子力発電設備計227百万ドル)が含まれているためであるが、これを除いても季節調整後前月比で+2.9%となり、承認額はこのところ漸増傾向

をたどっているものとみられる(前記の特殊大口分調整後の前年同月比+17.1%)。

3月の輸入素原材料在庫率(季節調整後)は、消費の大幅な伸びを主因に前月比-4.4%と前月に引き続き低下した。もっとも在庫率の水準が依然高めであることに変わりはなく、最近の低下は、昨秋以降先行きの生産増に備えて積み増しされた在庫がその後の生産増加に伴い漸次通常の水準に復してきていることを映じたものとみられる。